

令和6年度第1回石狩市学校給食センター運営委員会 会議録

【開催日時】 令和6年6月6日(木) 18時00分～19時17分

【会 場】 石狩市学校給食センター会議室

【出席委員】 (11名)

伊藤麻美委員、小原江里委員、金谷聡委員、高橋容子委員、
若林公一委員、池田美保委員、高橋克典委員、百々瀬いづみ委員、
石田しづえ委員、秋田谷順子委員、角田由希委員

【傍聴者数】 1名

【事務局】 (8名)

佐々木教育長、中西学校教育部長、高石学校給食センター長、
吉田厚田学校給食センター主幹、西山給食担当主査、丸山主任、
齊藤主任、宮原主任管理栄養士、

【会議次第】 別紙のとおり

【会 議 録】

◎開会前

「1. 教育長挨拶」

○（高石センター長）

定刻となりましたので、委員会を始めさせていただきます。

本日はご多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

開会に先立ち、石狩市教育委員会教育長の佐々木よりご挨拶申し上げます。

○（佐々木教育長）

皆様こんばんは。教育長の佐々木でございます。

夜分にお集まりいただきましてありがとうございます。

本年度第1回の学校給食センター運営委員会ということで、一言ご挨拶を申し上げます。

何かとご多用のところ、学校給食センター運営委員会の委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。今回12人中8人が新しいメンバーとなり非常にフレッシュな感じになりました。皆様方の知見を持ち寄って闊達な議論を展開いただき、この石狩市の学校給食をより良い道へ進んでいくよう道筋を見い出してまいりたいと思います。

ますので、2年間どうぞよろしくお願いいたします。

本日、諮問を用意しているところでありますけれども、学校給食は子どもたちの心身の健康、学校における食育を推進するという役割を持っておりますので、安全・安心で美味しい給食を安定して提供するという要請がありますけれども、最近では高齢化や人口減少、時間外勤務の規制による労働力不足などの話があり、札幌市では運転手不足により市内のバスが減便になると報道されておりましたが、学校給食の現場においてもそのような影響を受けてしまうことがあります。特に本市では、厚田学校給食センターでこの影響が顕著に出てきており、この厚田学校給食センターから供給している厚田区、浜益区の給食をこれからも安定的に継続するためにどうするかを皆様方にご議論いただくことを考えております。

今後、両区の子どもたち、保護者のご意見等を加味しながら慎重な検討が必要になると考えておりますけれども、忌憚のないご意見をいただく中でより良い道を見い出してまいりたいと考えております。

昨年、食材の高騰を踏まえ学校給食費の適正な水準について、この運営委員会の中でご検討いただきました。こちらの経緯につきましては後ほど説明がありますが、今年も食材の値上げが続いている状況を踏まえ、今後において望ましい給食費の在り方について議論をお願いすることになると考えております。

委員の皆様方には重いテーマの検討をお願いすることになりますが、議論の中では常に子どもを真ん中に置いて、学校給食を通して石狩市の子どもたちの最善の利益を実現するためにはどうするかという視点を意識していただきたいと思います。

昨年、子ども基本法が施行され、来年度は石狩市の子ども権利条例が施行される予定となっておりますので、このような観点を念頭に置いていただきたいと思いますようお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、第1回の運営委員会の開催にあたっての私からのご挨拶とさせていただきます。

どうぞ2年間よろしくお願いいたします。

「2. 委嘱状交付」

○（高石センター長）

続きまして、委嘱状の交付となります。

あらかじめ机上にご用意させていただいております。

これをもちまして委嘱状の交付とさせていただきますのでご了承願います。

「3. 委員紹介」

次に、委員紹介に入りますが、百々瀬委員から石田委員と反時計回りに順に自己紹介をお願いいたします。

それでは、百々瀬委員から反時計回りをお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

～各委員自己紹介～

百々瀬委員、石田委員、金谷委員、伊藤委員、小原委員、若林委員、
高橋（洋子）委員、角田委員、秋田谷委員、高橋（克典）委員、池田委員、

○（高石センター長）

ありがとうございました。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、事務局の紹介をいたします。

～事務局職員・栄養教諭紹介～

中西部長、高石センター長、吉田厚田学校給食センター主幹、西山主査、
丸山主任、齊藤主任、宮原主任管理栄養士

◎開会

○（高石センター長）

それでは、これより「令和6年度第1回石狩市学校給食センター運営委員会」を開会します。

新しい任期となりましたので、委員長、副委員長が決まるまでの間、私が進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは次第の1、「委員長・副委員長の選任」です。

学校給食センター条例第4条に基づき、委員長、副委員長を1名ずつ互選いただきたいと思います。自薦、他薦を問いませんが推薦等ございませんでしょうか。

（各委員）

～「なし」～の声

それでは、差し支えなければ事務局から案を提示させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員）

～「異議なし」～の声

○（高石センター長）

ありがとうございます。

それでは、事務局案を申し上げます。

委員長は学校給食も含めて学校教育の現場で長く貢献いただいております花川小学校校長の若林委員、副委員長は栄養学、食育等で学識経験豊富な札幌保健医療大学教授の百々瀬委員にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(各委員)

～「異議なし」の声～

○（高石センター長）

それでは、委員長に若林委員、副委員長に百々瀬委員を互選いただきました。

以降、議事の進行を、若林委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○（若林委員長）

委員長にご指名いただきました、花川小学校校長の若林です。

よろしくお願いいたします。

円滑な議事進行ができるよう、皆様方のお力をお借りしながら進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日、児玉委員から所用のため欠席されるとのご連絡をいただいております。

委員数は全員で 12 名、委員の過半数が出席しており、本日の委員会が成立していることをご報告します。

議事に入る前に、運営委員会の進め方について、注意点がございます。

会議録の作成方法ですが、会議の発言内容をすべて記録する「全文筆記」方式で作成し、委員長の署名をもって議事録の確定といたします。

そのため、発言する際には、挙手をして、私からの指名のあと、お名前をおっしゃってから発言をお願いします。よろしくお願いいたします。

2. 諮問

それでは議事を進めてまいります。

次第の 2、「諮問 厚田区及び浜益区の学校給食の今後の提供方法について」をお願いします。

○（佐々木教育長） 【会議場の中央にて教育長から委員長へ手交】

石狩市学校給食センター運営委員会 委員長 若 林 公 一 様

下記の事項について、石狩市学校給食センター条例第 8 条第 2 項の規定に基づき、諮問いたします。

諮問理由

本市の学校給食は現在、石狩市学校給食センターと厚田学校給食センターの2つのセンターから提供しており、石狩市学校給食センターは旧石狩市域、厚田学校給食センターは厚田区及び浜益区へそれぞれ提供しています。

近年、進展する人口減少と少子高齢化それに伴う労働力不足による影響が様々な分野で露見してきておりますが、特に、厚田学校給食センターでは、調理員等の体制、食材納品に係る配送への影響等、給食提供に支障をきたす様々なリスクが表面化しており、厚田区及び浜益区の学校給食を安定的に提供することが難しくなっています。

このことから、厚田区及び浜益区の学校給食をより安定的に提供するため、令和7年度を目途とし、厚田学校給食センターを廃止し、石狩市学校給食センターで調理した学校給食を厚田区及び浜益区の学校に配送することについて、ご審議頂きたく、貴委員会に諮問するものです。

○（若林委員長） 【教育長から諮問書を受理】

慎んでお受けいたします。

○（高石センター長）

教育長はここで退席させていただきます。

○（佐々木教育長）

それでは、よろしくご審議をお願いいたします。

3. 議事

○（若林委員長）

それでは議事に入りたいと思います。

次第の3、「議事（1）協議事項」の「厚田区及び浜益区の学校給食の今後の提供方法について」、事務局から説明をお願いします。

○（西山主査）

それでは資料に沿ってご説明いたします。

今回の諮問に至ったこれまでの経緯や、現状、今後の取組についての説明資料となります。1枚めくって頂き目次のページをご覧ください。

1から5までの大項目がありますが、1から3が、現状と課題の説明となり、4が、今後に向けての、諮問の説明となります。5が、今後に向けての対応すべき課題、最後に主な課題の比較表となります。2ページをご覧ください。

2現状については、本市の給食センターの歴史、各センターの概要及び特徴を説明しています。

規模的な概要では、厚田のセンターは、厚田区浜益区の3校へ提供し一日に約120食、調理員等は約5人、石狩のセンターは、旧石狩市域の13校へ提供し一日に約4,700食、調理員等は約60人です。

3ページになりますが、食缶の保温性能、食器や食物アレルギー等への対応できる範囲での違いなど、竣工時期の時代背景等により設備等に特徴があります。

続いて、4ページをご覧ください。3厚田センターを取り巻く状況と課題、(1)日本の人口減少と本市の状況です。

現在、日本は人口減少と少子高齢化が急速に進み労働力不足が顕著になってきており、厚田区及び浜益区では、生産年齢人口が高齢者人口を下回り、生産年齢人口はそれぞれ約6割、合併時と比較し、減少しています。

このような現状の中、特に、厚田センターを取り巻く環境においては、人手不足が、非常に顕著に現れてきております。

5ページ、(2)厚田センターの人手不足及び配送の状況と課題、地元の調理員等の人手不足についてです。

厚田センターは、以前は、厚田区の市民の雇用場であり、また、それ故に、石狩と厚田の間の道路が悪天候で寸断されたとしても、「厚田で給食を作り、厚田浜益に配送もできる。」という、強みがありました。しかしながら、現状としては、調理員の雇用がままならず、また、事務員も含めて、高齢化が進み、これまでも募集をかけても調理員が集まらないような状況となっています。令和4年の年末から年度末にかけて、このような状況が顕著となり、現在は人材派遣会社を通して、札幌方面より調理員を送迎し、なんとか調理を行っている状態です。

学校給食の調理は、その現場の設備や体制に合わせたスキルも求められることから、派遣の調理員は、スキルアップ、安定的な人材として定着することが、難しい面もあります。地元雇用の調理員による安定的な調理体制が、理想となりますが、現実、そのような安定的な調理体制を維持することは、非常に難しい状況にあります。

次に、5ページの下から6ページ、食材の配送にかかる人手不足についてです。

学校給食は、牛乳、パンやごはん等の主食及びおかず等で構成され、これらの食材を納品し、検品、調理を行い、給食として学校へ配送されます。石狩センターも厚田センターも一大経済圏域である札幌近郊の事業者より様々な食材を納品しています。

学校給食は提供するその日に調理することや、鮮度・品質の面も考慮し、その納品時間もおのずと制限があり、また、厚田は、札幌から一定程度距離があることもあり、食材の納品にあたっては、従前より配送できる事業者は少なく、また、食材費用へ含まれる配送費用は、遠隔地である分が上乗せされるものもあります。令和5年度末には、物流業界の「2024年問題」が現実として押し寄せ、学校給食をとりまく配送についても様々な要請がありました。厚田センターへ納品する事業者においても労働力不足が顕著となり、配送の頻度を減らすことや、配送費用の上昇による食材の値上げの要請もある中、物流網の統廃合も含めた事業者の努力により、なんとか令和6年度については納品体制の維持が図られたところですが、この労働力不足が顕在化する中、

今後についても食材の納品環境は一層厳しい状況となるものと思われます。

続いて、7 ページ、(3) 厚田センターのその他の状況と課題です。

ここでは、その他の状況として、学校給食を提供するため必要な人手である、事務員や出来上がった学校給食の配送携わる方についても、調理員同様、高齢化の側面と地元雇用がままならない状況が続いていること、調理員が少ないことによる、調理方法の制限があることや、施設も老朽化が進んでいることを説明しています。

続いて、7 ページの(4) 現状のままでの今後の見通しです。

今後は、以前のように厚田区内での労働力を確保することは一層厳しいものと想定され、厚田センターを維持するために調理員等は、区外から確保する必要があります。つまり、これまでは悪天候で石狩、厚田間の道路が寸断されたとしても、厚田で給食を作り、厚田浜益に配送もできましたが、そもそも調理すらできなくなります。また、食材の配送についても、令和6年度はなんとか概ねこれまでの納品体制の維持が図られましたが、厚田センターへの食材の配送環境は、今後より厳しくなり、食材の確保環境は一層脆弱になることが想定されます。これまでも、厚田センターの調理員等の努力があり、なんとか給食を提供してきましたが、人材リスク、食材リスク、その他の様々なリスクが増加する中、現状のままでは、厚田センターでは学校給食そのものが作れなくなる状況が着実に近づいています。

ここまでが、現状と課題の説明となります。

続いて、8 ページ及び9 ページをご覧ください。4 厚田区・浜益区の学校給食の今後の提供方法についてです。

石狩センターは厚田センターと比較し、学校給食を作る人材供給の面では、安定性が高く、また、食材納品でのリスクも低く抑えられ、様々なリスクを、大幅に軽減することができます。石狩センターで調理した学校給食を厚田区及び浜益区の学校に配送することが、学校給食の提供を維持するための最も安全性の高い方法となります。

この方法の他、(2) 検討の経緯に記載しているとおり、学校給食法の給食とは異なるスクールランチという手法や別事業者への民間委託等の検討を市長部局等とともに行ってきました。しかしながら、同じ市内でありながら、給食とスクールランチという異なった形態が併存することは、生きた食育である給食そのものが異なったものとなり教育環境に差異が生じることや、委託等の手法を変更したとしても、地域での人材確保は厳しくなる一方であるなどの課題がありました。これらを踏まえ、(3) 厚田区・浜益区の学校給食の今後の提供方法についてに記載してありますように、今後、厚田区及び浜益区の学校給食をより安定的に提供するためには、石狩センターで調理した学校給食を両区の学校に配送することが最も適切な方法であり、その時期については上述の状況を踏まえ喫緊の課題と捉え、可能な限り早く令和7年度を一つの目途とし進めることが必要で、このような方向性が適切な方法と認識を持ちながら、今回諮問をした次第であります。

10 ページ以降をご覧ください。5 今後の提供に向けた取組等についてです。

ここでは、今後、石狩センターから配送するとした場合の想定される課題の対応に

について記載しています。(1) 悪天候等で給食配送ができなかった時の対応についてです。

石狩と厚田間は冬季の暴風雪等が想定され、また、厚田区のみ悪天候や、旧石狩市域での悪天候などによっても、給食配送ができないケースが想定されます。

10 ページ下の枠内に過去 5 年間の事例を掲載しております。

国道 231 号線は、防雪柵の設置等により通行止めの回数は以前より減少したこともあり、これらのことから学校給食の配送に影響を及ぼすようなケースは通常の状態と比べ、給食提供日数の内数%程度と極めて低いものと想定されますが、厚田区及び浜益区の気候、地勢的な面も配慮しこの点は備えておくべき課題です。

給食用備蓄食は現在、食物アレルギーに対応し温めずにお米とカレーが食べられる「救給カレー」を両区の各校へ常備しています。

今後、給食用備蓄食は学校、児童生徒、保護者等の意見を頂き、防災関連事業、食育関連事業等や地域との連携も模索しながら、そのあり方、内容や必要数を検討します。

次に、11 ページ(2) 食育の継続（栄養教諭の確保）です。

北海道の教員である栄養教諭は、他の教職員と同様に配置基準があり厚田センターを廃止した場合、その定数は 1 名減となります。学校教育での食育は、栄養教諭がその中心にあり、学校給食の管理のみならず、食育の一環として学校等で行われる「食の指導」に関しても、これまでと同様に行うことが求められます。両区の学校においても、これまでの食育と同レベルの維持・継続が必要と考えています。そのため、栄養教諭のみならず管理栄養士、栄養士の連携も含めて、学校側の意見を頂きながらそのあり方を検討します。

次に、12 ページ(3) 給食の内容についてです。

今後、石狩センターから厚田区及び浜益区へ学校給食を配送するとした場合、石狩市内すべて統一の献立となります。厚田区及び浜益区の学校給食において変更となる主な点を説明します。まず、食物アレルギー等の対応です。

これまでも対応していたアレルギー明示献立表の配付と牛乳を麦茶に変更できる運用に加え、より対応レベルの高い卵の除去食の提供、卵入り加工品・乳製品加工品の代替食の提供が可能となります。次に、食器、食缶、温度管理です。

厚田センターではこれまで、メラミン食器を使用していましたが、今後は、強化磁器食器となります。強化磁器食器は、メラミン食器と比較すると、重い割れやすい等のデメリットがありますが、その点も含めて、食育の観点からメリットも多く導入している食器となります。給食を届ける際の食缶については、これまでよりも、高性能な断熱食缶を使用します。中身の量に対して食缶が大きすぎるとは保温効果も低くなることから、学校の学級編成等に合わせた食缶のあり方も学校側と検討を進めます。

なお、学校給食衛生管理基準では、調理後の食品は適切な温度管理を行い、調理後 2 時間以内に喫食できるよう努めることと規定されているところです。

本市の給食は、両センターとも概ね児童生徒の喫食の 1 時間半から 2 時間前までの

タイミングででき上がることから、近距離のため直前まで調理していたり、遠距離のため給食の温度が下がるということはありません。この点は、現時点と今後を比較してもほぼ違いはありません。また、両区への配送と給食の時間について、例として、石狩センターでは、温かい汁物等の釜が4つあり、出来上がり時間がそれぞれ異なります。

この4つの釜の内、出来上がり時間の遅い釜から食缶への盛込みを行い配送し、食べ始める時間を少し早めることなどにより、2時間以内に喫食することが可能となります。

次に、食事の献立です。これまで厚田センターの献立には、人的な制約等もあり調理方法の制限がございましたが、今後は、揚げ物の回数を増やしたり、冷たい麺を提供できるようになります。また、卒業シーズンは、厚田区及び浜益区の学校では現在、全児童生徒を対象としてセレクト給食を実施していますが今後は、石狩センターで実施している小学校6年生を対象としたバイキング給食を実施することになります。

最後に、13 ページ(4)現状と今後の比較です。

これまでお示しした部分と重複する点もありますが、厚田センターでの調理、配送を行う現状と、石狩センターで調理、配送を行う今後について、主な比較の表を掲載しておりますのでご覧になって頂きたいと思います。以上で、資料の説明を終わります。

○（若林委員長）

ありがとうございました。協議に入る前に、厚田学校給食センターの吉田主幹もお見えになってますので、地域の実情、生の声をお聞かせ願えればと思いますので、よろしくお願いします。

○（吉田厚田センター主幹）

厚田学校給食センターの吉田と申します。厚田学校給食センターでは元々は5名体制で調理を行っておりましたが、数年前から4名体制になり、その頃、求人募集のチラシを区内に配付する等の対応をしてまいりました。令和4年度末には退職等により職員が2名体制となったため、令和5年当初から人材派遣会社より調理員を派遣してもらい調理体制としては、今のところ安定している状況となっております。

ただ、厚田区内ではセイコーマートが人材不足により、朝6時開店のところ9時開店とする等、今後についても人材の確保について、大変な思いをしていると感じております。

○（若林委員長）

ありがとうございます。先ほど教育長から諮問を受けましたので、委員皆さんの意見を伺いながら答申することになります。事務局に確認したいのですが、この後、協議に入りますが、各委員がどの場面で意見・考えを発言すればいいか今後のスケジュール

ールについてお聞かせ願えればと思います。

○（高石センター長）

今後予定しております本運営委員会のスケジュール感と今後保護者等より意見をいただく訳ですがその手法等についてご説明いたします。運営委員会においてご審議いただくため、厚田区、浜益区の学校において複数回の説明の機会及び実際に食べていただく機会を設けご意見等をいただくよう準備をしているところであります。

対象は児童生徒、その保護者、就学前の子どもの保護者、学校教育に携わる学校運営協議会委員等の地域の方々、教職員等を想定しています。併せて両区の地域協議会へは、つぶさにこの動きをご報告させていただきたいと考えています。

説明会等は7月開催を考えており、次回の運営委員会につきましては8月開催を予定しているところです。説明会等でいただいた意見を本運営委員会にフィードバックしながら、複数回ご審議を重ねていただき、その上で答申をいただきたいと思います。

○（若林委員長）

ありがとうございます。ただいま今後の学校給食の提供方法について、スケジュール、見通しを事務局よりお話いただきました。次回も話し合いの場があると、地域等での声を吸い上げてきたものをまた協議できるとのことですので、今日はざっくりばらんに感想でも質問でも構いませんので、差し支えなければひとり一言ずつ2分以内でお話いただければ19時過ぎくらいを目途に終われたらと思っておりますので、気軽に思ったこと、感じたことをお話いただいて結構ですので池田委員から順にお話いただければと思います。

○（池田委員）

花川南中学校、池田です。私たちは直接関わらないことなので給食センターの皆さんが厚田・浜益の方たちの声を聞いた上で意見を言いたいと思います。今時点では何とも言えないというのが正直なところです。

○（高橋（克）委員）

私もその通りだと思います。地元や地域の方々のご意見が優先されるべきだと思いますが、事務局からのお話を聞いていると人員の問題、調理員の環境の問題、食材調達の問題等やむを得ない部分が多いと考えます。教職員の立場として一番優先すべきなのは、地域子どもたちに安定して給食を供給できる方法だと思います。地域の方々のご意見や給食センターのご意見を聞きながら一番バランスのいい形で決着できればいいと思います。難しい問題だと思いますが今の段階ではそれくらいしか思いつかないです。

○（角田委員）

一般公募の角田です。人員不足の件が出ましたが厚田区内はどこも一緒と感じていて、給食センターがひとつになるのはしょうがないのかなと私は思います。普通に保護者からすると厚田と石狩の給食の違いがわからないので保護者説明会で話いただけると助かります。一番気になるのは天気面で、備蓄食はどれくらいあるのか気になっています。説明会では保護者が安心して納得できるような説明をお願いしたいと思います。

○（若林委員長）

ただいまの質問、事務局はいかがですか。

○（宮原主任管理栄養士）

学校給食センターの宮原です。厚田と石狩との違いですが、メニューは統一献立ではなく若干の差があります。配送の関係で厚田単独で食材を頼むとなると揃わない、価格が高くなる等あるので、石狩で使用する食材を厚田でも使ってもらうと同じ値段でいいとの業者の配慮により最近のメニューは近い傾向にあります。厚田では人員等の関係で揚げ物が頻繁にできませんが、石狩では週2回程揚げ物ができる分、厚田では蒸し物が多くなるという状況です。試食会では冷たい麺を考えていますが、厚田では麺業者が宅急便により前日着で麺を送るため、当日には温めた麺しか提供できませんが、石狩では提供する当日に納品となるため、夏場には冷たい麺を提供でき、若干レパートリーの違いがあります。

○（西山主査）

学校給食センターの西山です。備蓄食については、現状2日分を備蓄しております。

非常食には保存年限があるので、切れる前に次の非常食を買い足す等して用意しています。今後これらについては、内容・数量等を検討してまいります。

○（若林委員長）

続いて、秋田谷委員お願いします。

○（秋田谷委員）

地元の人声はすごく大事なので、私たちが簡単に言えることではありませんが、浜益まで2時間ほどで届けられるか心配して聞いてました。特に冬季間では2時間以内の喫食が可能なのかという心配があります。

○（若林委員長）

ありがとうございます。今の件、事務局いかがですか。

○（高石センター長）

この件につきましては、この話の入口論として神経を使っていたところです。

努力規定ではありますが、2時間というのは日本では学校給食におけるルールとなっています。浜益まで実走して計測したところ1時間少々でした。2時間というのは出来上がってから口に入るまでですので、出来上がる時間をコントロールし、出来上がって盛り込み後すぐ配送して、そこで検食して食べるまでの時間を考えたときに1時間少々で着けば食べ始める時間について学校側と調整をすると2時間以内に食べることができます。通常ベースであれば2時間以内で食べることはできると言えますが、絶対ということは無いので悪天候や落石等があった場合の対処方法は別の課題として対応しようと考えてます。

○（若林委員長）

続いて、高橋（容）委員お願いします。

○（高橋（容）委員）

この話は、子どもにとっては難しい話だと思いますが、揚げ物が増えること、冷たい麺が食べれることは喜ぶと思います。厚田・浜益の保護者等は食べる機会があるとのことなのでその意見を聞いてうまくいけばいいと思いました。他市の状況は知りませんが、管内で石狩市の給食は美味しいと聞くのでそれが食べられるのはいいと思いました。

○（若林委員長）

ありがとうございました。石狩市の給食はすごく美味しいです。品数も多く、子どもたちも楽しみにしています。続いて、小原委員お願いします。

○（小原委員）

試食会に何度か参加したが美味しく、子どもたちも喜んでおり、ありがたいです。給食費もこの金額なのでいいことばかりと思っています。地元の方の意見がわからないので次回に聞いてみたいです。

それと、石狩学校給食センターの方々の負担は大丈夫なのかと思いました。

○（若林委員長）

ありがとうございました。事務局どうですか。

○（高石センター長）

石狩センターのフル稼働で今約 4700 食作っています。その中で臨時休校等がある場合、例えば南線小学校ですと約 1000 食が減ることもあり、そのような中で現在調理員は午前中だけで約 40、50 人が働いており、実際に厚田分・浜益分を作る部分で

は、人区として計算したとしても1人分がいるかどうかというレベルです。

○（若林委員長）

続いて、伊藤委員お願いします。

○（伊藤委員）

一番は子どもたちが美味しく楽しく食べるのが大事。厚田・浜益の子に感想を聞くのはいい機会だと思います。他市PTAとの話の中で子どもの体格が違うのは給食だとの話も出ることもあり、市内で給食に差が無くなり同じものを食べて育つことはいいことだと思います。資料を見てるとメリットばかりとを感じるが、人手不足はどの業種もあるので業務改善や事務効率化、見直し等が必要。今後話し合いをして良い方向に進めたらいいと思います。今回、このような話を聞けて良かったです。

○（若林委員長）

ありがとうございます。続いて、金谷委員お願いします。

○（金谷委員）

生振小学校の金谷です。厚田方面の人手不足の件は理解できるので、全体的な方向として集約していくことはいたしかたないと思うが、冬の悪天候が気になります。

自分は八幡町高岡の障害者支援施設に勤務していますが、冬は本当に酷い。志美を過ぎると急にホワイトアウトに近くなることがあり、資料に記載のある国道231号の通行止めが過去5年間で4回しかないというのが驚きで肌感覚ではこれの何倍もある。実際昨シーズンで暴風雪警報がでた日が5～6回はあったと思います。悪天候により早々に帰ることもあり、帰れなかったこともありました。八幡からトーメン団地までの間で玉突き事故もあったので国道231号が通行止めにならないから行けというのではなく暴風雪警報が出ていたら安全を考慮しやめる判断が必要と思うので、備蓄食をもっと準備する必要があると考えます。

○（若林委員長）

ありがとうございます。続いて、石田委員お願いします。

○（石田委員）

藤女子大学の石田です。私もいたしかたないと思いました。資料を見るといいことがたくさん書かれているかもしれないが、道路状況等懸念されることを感じていました。懸念材料を出した中で、備蓄があるならその内容をもう少し考える必要があると思います。

あと、配送が遅れた場合、適温で提供されるのか、保温性など改善できるものがあるのか、高性能断熱食缶の性能を教えてください。

○（若林委員長）

事務局、お願いします。

○（高石センター長）

給食センター高石です。現在厚田センターで使っている食缶は保温機能の無い食缶で石狩センターはセンター建設時から高性能断熱食缶で、調理器具メーカーが販売し、中に真空の部分・パッキンがあり押さえられている形になります。性能の数値は今、持ち合わせておりませんが、メーカーで性能試験をしたものがあり、通常のものより温度の変化度合に差があり、温かいものは冷めにくい、冷たいものは温まりにくいという性能です。

○（石田委員）

時間的なものをもう少し調べていただきたい。時間が掛かった場合でも温かく提供できるのか、もし冷めてしまう状況の場合に更に提供できるものがあるのか他の方向からも検討いただきたい。

○（高石センター長）

何らかの形でお示し等させていただきたいと思います。

○（若林委員長）

続いて、百々瀬委員お願いします。

○（百々瀬委員）

札幌保健医療大学の百々瀬です。私も今の人手不足を考えると取り組んでいかなければいけない方向で、懸念することは先に考えないといけない。

いくつか質問がありますが、ひとつは配送で実走した時間帯、天候、季節等、条件はどうだったのか。2点目は、厚田・浜益の分も一緒に作ることになった場合食数が増えるが、同時に作るのか、分けて作るのか。もし同時に作る場合、仕上げる時間は今までどおりなのか、早めに作業開始か、仕上げを急がなければいけないのか、どうなるのかと思いました。

札幌市の場合は、時差をつけて作っているが、石狩市はどういう方向なのか。以上です。

○（宮原主任管理栄養士）

一緒に作る方法ですが、石狩では温食缶の汁物とかは4釜で作っていますが、その中の1釜で一緒に厚田・浜益分を対応しようと思っています。先に厚田・浜益分を作ったというのではなくて、盛り込みの間、2時間ルールが守れるところで盛り込みを組み込むので現状のスケジュールで大きく変わることはありません。

○（高石センター長）

配送についてどれだけ検証を重ねたかの部分ですが、単純な考え方として学校給食は平日でありますのでそこまでの混雑はなく、また、走行する時間帯は通勤時間帯より少し遅くなります。

次に、実走につきましては1回しかしていませんがトラックと同様の走り方を意識して法定速度を守りながら実施しております。また、実際支所へ通勤する職員も多くいますので冬期の状況を聴き取ったり、地図アプリを使って所要時間を検索したりして概ね1時間15分程度と考え、時間を設定しています。

○（若林委員長）

百々瀬委員、よろしいですか。

○（百々瀬委員）

はい。

○（若林委員長）

貴重なご意見がたくさん出て良かったと思います。

引き続き次回以降も協議する場があるとのことで、さらには事務局の方で地域の方に給食を提供し、地域の方たちの声を第2回目にお聞かせできるとのことなので、それを踏まえながら委員会の意見としてまとめいければと思いますが、よろしいですか。

（各委員）

～「異議なし」の声～

4. その他

○（若林委員長）

今日は、これで協議を終えたいと思います。事務局、よろしいですか。

それでは、次第の4その他について委員の皆さま、もしくは事務局から何かございますか。事務局、お願いします。

○（西山主査）

事務局から資料の説明がございます。本日お配りした資料の中で参考資料①から④まで4種類ございますので、こちらについてご説明いたします。

まず資料①ですが、令和6年度の学校給食費についてです。

こちらは4月当初に各校を通じて保護者へ配布した文書になります。世界的な社会情勢や気象変動、また、それらに起因する資源価格の高騰などにより、様々な物価が急激に上昇する傾向となっており、このことを受けて、令和5年度の学校給食センタ

一運営委員会において「学校給食費の適正な水準」について答申をいただきました。

令和6年度は国の交付金を活用することにより、給食費は改定せず、保護者負担額を据え置きとしました。今後、当委員会において「学校給食費の適正な水準」について改めてご検討いただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、資料②でございます。

こちらは、石狩市学校給食センターの概要を記載しております。

石狩センターの厨房の様子や調理機材、使用している食缶食器などについての説明資料となります。

続きまして、資料③でございます。

こちらは、厚田学校給食センターの概要を記載しております。

石狩センターのようなパンフレットの資料がありませんので、厚田センターの所在地、面積、厨房内部の概要図を掲載させていただいております。

最後に、資料④につきましては、担当の宮原からご説明いたします。

○（宮原主任管理栄養士）

資料④は、給食センターで行っている食育講座のご案内になります。

団体向けと個人向けの2種類があり、団体向けは6月11日から3月21日までの間において5名以上で、他のイベントと被ってなければ希望のスケジュール・内容を打ち合わせた後、当日に講座とその日の給食を試食する内容で実施しております。

次に、個人向けは毎月最後の給食提供日にセンターで決定済みの講座内容と給食の試食となります。ご興味のある方、サークル等で活用いただければと思います。詳細内容は、市広報や町内会回覧等でお知らせしておりますので、ご参加ください。

○（中西学校教育部長）

これまでの補足も含めて、一言、発言します。2時間喫食ルールのお話をしていますが、これはいつの時代か分からないくらい前でして、皆さんご存知のとおり今保温できる缶やボトル含め高性能になっていますので昔とは状況が違うと思います。

心配されるのは、2時間後等に何度の温度が保たれているので安全ですという説明をするのが一番確かだと思うので、その辺のデータ・資料を合わせて今後お示しできればと思います。

給食で体格が変わるとのお話がありましたが、給食は1日3食のうちの1食だと思います。石狩市では朝食の摂食率が非常に低いとのデータが出てますので、朝食をしっかり食べていただくことをご家庭にはお願いしたいと思います。

○（若林委員長）

事務局、各委員から、何かありますか。

なければ、無茶を言って委員の皆さんに発言してもらい、貴重なご意見をたくさん聞かせていただいたと思います。ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の令和6年度第1回石狩市学校給食センター運営委員会を閉会いたします。皆さま、お疲れさまでした。

○（事務局）

ありがとうございました。

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和6年7月5日

石狩市学校給食センター運営委員会
委員長 若林 公一

